

カラフルで ハッピーな 世界

色鉛筆の色数は、あればあるほど描く人の選択肢や作品の可能性を広げます。

さらに、色の違いを組み合わせたり重ねることによって、素晴らしい配色や思いがけない色が生まれたりするのです。

12色のケースに収まらなくてもいい。あなたの生き方を、あなたの「色」を探してみませんか。

そしてまだ見ぬ誰かと新しい「色」を生み出してみませんか。

今回は、自分の「色」を見つけた松原の2人を紹介します。



「新ちくサントニー島」

作品写真提供：アトリエインカーブ

アーティストとして生きる
湯元光男さん
アトリエインカーブ

ただただ楽しい。だから描く

よく描く絵のモチーフは、世界遺産になっっている建物やお城です。世界各国たくさん描いてきましたね。今もタージマハルを描いています。

描きだしはパソコンでモチーフを選び、スタンプに印刷してもらいます。それを見ながら紙に思うまま描いていきます。

はじめに鉛筆で輪郭をとり、次に色鉛筆で塗っていく。大体2カ月程かけて、1枚を仕上げます。画材はずっと色鉛筆。芯が折れるくらい強く描いています。



一緒に描いたハチがペガサスを攻撃しているのが見せ場です。

これからの夢

インカーブを知ったきっかけは、14年前に松原市役所の人から紹介されてです。それまでは、絵は広告の裏に描くくらいでした。ここに来てからの変化は、心が図太くなったかな(笑)。

絵を描くこと以外は、料理をしたり、大和川でインカーブのみんなと野球するのが好きです。ちなみにポジションはエースで4番！

これからの夢は個展。一度、自分の個展を開いてみたいです。



「ノイシュヴァンミュータイン城とさそり座とカニ座」



「仏ぞう(4)」

紙の色もそのときの気分で選んでいます。一つの絵が仕上がる前には、もう次に何を描くかは考えていて、出来たらすぐに次の絵に取りかかります。

飽きることはないです。描くことが楽しみなんで…。

純粋な「好き」が線に、色になる

モチーフに動物を組み合わせて描くのも好きです。

一番のお気に入りは「新ちくサントニー島(左上参照)」。ギリシャの国旗部分が入っています。中央の鳥は図鑑を見て描きました。

昔は仏像なども描いていました。マッキー(松原市マスコットキャラクター)を描いたこともあります。

最近うまくいったと感じたのはツタンカーメンの絵(下参照)。



「ツタンカーメン スフィンクス ピラミッド ハチ ハチのす カブトムシ」

アトリエインカーブとは

スタッフ 三宅優子さん



知的に障害のあるアーティストの創作環境を整え、作家として独立することを支援しています。

ここでは創作についての指導を一切していません。スタッフはアーティストが思うままに楽しく創作できるように画材や資料を用意し、出来た作品の保管・管理や販売業務をしています。ここ数年は全国的美術館で展覧会が開催され、2010年には京都にインカーブ専属のギャラリーを構えました。最近では国内外で認知度が上がり東京やニューヨークなどのアートフェアにも出展し、アーティストの収入につながっています。

また、2016年春のオープンを目指し、小学生から高校生の子どもたちに向けて放課後等デイサービス事業「アトリエインカーブJr.」を検討しています。今年の9月からは体験会を実施しますので、興味がある場合はお問い合わせください。

皆さんには「障害者アート」という狭いカテゴリーでくくることなく、「現代アート」として自然な目で彼らの作品を楽しんでいただければうれしいです。これからもアーティストの気持ちを第一に、彼ら本人が選ぶ道を見守ってまいります。

アトリエインカーブ <http://incurve.jp>



地域のために生きる

坂野久和さん

障害当事者の会「ドリーム

ドリームとは

元々は、松原市社会福祉協議会（以下社協）で月1回開催されているピアサロン（当事者同士が気軽に話せる場）に通うメンバーが集まって「社協でのプログラム以外にも、自分たちの希望する場所に出かけてみよう！」と企画したのが始まりです。今では、どこかに外出することはもちろん、情報交換やボッチャ（※）の練習、小・中学校を巡ったりもしています。

一歩が出会いを生んで

僕は、松原で小・中・高一般学校に通っていました。高校を卒業した後、周りの友達が進学したり、就職したりと、関係が希薄になってしまった時期があるんです。

それまでは、一人で外出したこともなく、友達に車いすを押ししてもらっていました。だから、とてもじゃないけど一人でもちに出るのが怖くて家に閉じこもりがちになったんです。22歳頃に、「これではいけない！」と障害者の職業訓練校に通ったり、一般企業で働きました。体力的なことなどで企業を退職したあと、「社協まつばら」でピアサロンを



知りました。そこで根木さん（肢体障がいピアカウンセラー）やほかの仲間に出会ったんです。

みんなの生きがい

ピアサロンに参加して4、5年経った2012年2月にドリームは誕生しました。

肢体不自由や高次脳機能障害など色んな障害の人が参加しています。

毎年お花見や、いつもと違うところだとメイド喫茶に行ったりもしましたよ（笑）。

学校巡りの際は、基本、現地集合です。障害によって、車いすの人もいれば、自転車に乗って来る人も

※ボッチャパラリンピック正式種目。障害によりボールを投げるができなくても、介助者にランプを使い意思を伝えることができれば参加可能。

るので、移動は自己負担になります。それでも、ほとんどみんな休まずに参加してくれている。ドリームが楽しみや生きがいになっているんです。そして、そのドリームでの出会いが各自の世界を広げていきます。今はフェイスブックなどで全国に活動を発信しています。

未来へつなぐ、それぞれの「色」

学校巡りでは、講義のようなものではなく、ボッチャと一緒に楽しんだり、できるだけ福祉の硬いイメージを崩そうと努力しています。

子どもたちに「障害者の人って、もっと暗くてとっつきづらいと思ってた」とよく言われます。

障害のあるなしに関わらず、人間誰しも、明るい人もいれば真面目な人、おもしろい人、いろいろです。

10年20年後、彼らがどんな大人になっていくのか楽しみですね。優しい人になってくれているら本当に嬉しいです。

